

第60回 発電用設備規格委員会 議事録

1. 日 時：2012年3月6日（火） 10:00～17:30

2. 場 所：日本機械学会 第1会議室

3. 出席者：

森下（JAEA）、宮口（IHI）、波木井（東電）、湯原（東大）、鈴木（JAEA）、伊勢田（住友金属）、川端（HSB）、高橋（電中研）、楠橋（JSW）、寺井（東大；～14:00）、鈴木（中電；PM）、酒井（東大；AM）、影山（東大；PM）、森（JEA）、村部（原電；AM）、船橋（火原協）、伊藤（原技協）、大崎（JNES）、浜田（東電）、牧（NISA）、小溝（阪大）、小山（三菱重工）

代理：

杉江（原技協／島川委員）、今野（発電技検／吉田委員）、大石／山本（三菱重工／加口委員）、野村（関電／西田委員）、永田（日立GE／川畑委員）、飯田（東電／PM酒井委員）、堂崎（原電／PM村部委員）、齋藤（東芝／14:00～寺井委員）

欠席：

西脇（東大）、舟木（経産省）、増山（九工大）

オブザーバー：

平山／齋藤／大野（東芝）、堂崎／寺門／藤野（原電）、飯田／尾崎／茂田井／伊藤（東電）、中野（三菱重工）
渡部（HSB）、加納／平／高坂（JNFL）、三枝（電中研）、阪田（OCL）、山田（中部電）、浅山（JAEA）

事務局：

高柳、海野、栗津

4. 配布資料：

60-1：第59回発電用設備規格委員会議事録案

60-2：発電用設備規格委員会名簿案

60-3：各専門委員会名簿案

60-4：発電用設備規格委員会幹事会概要

60-5：書面投票結果

60-6：公衆審査結果、質問受付回答状況

60-7：火力専門委員会報告

60-8：原子力専門委員会報告

60-9：材料専門委員会報告

60-10：核融合専門委員会報告

60-11-1：運営規約改訂提案

60-11-2：審議要領改訂提案

60-11-3：審議要領改訂提案

60-11-4：規格原案策定に関する内規改訂提案

60-11-5：外的事象起因のシビアアクシデント対象設計ガイドラインの策定進捗状況

60-11-6：RPV/PCV の構造健全性及び耐漏えい性評価に係るガイドラインの策定進捗状況

60-11-7：MDEP-Code Comparison Project 状況

60-11-8：一般要求事項検討タスクの進捗状況

60-11-9：原子力関連学協会における活動状況

60-11-10：東電福島原発事故調査検証委員会中間報告対応

60-11-11：標準・規格センター運営・企画委員会審議状況

60-12：詳細規定案材料分科会関連

60-13-1：〔報告事項〕 発電用設備規格委員会での維持規格案に対する投票結果について

60-13-2：発電用設備規格委員会での溶接規格案に対する投票結果と対応について

60-13-3：〔報告事項〕 発電用設備規格委員会での設計規格案に対する投票結果と対応について

60-14-1：材料規格（2011年版）改訂提案（その1）

60-14-2：JIS2010年改正対応サマリ

60-14-3：JIS2011年改正対応サマリ

- 60-15-1：金属キャスク構造規格（2007年版）予熱温度の誤記訂正
- 60-15-2：金属キャスク構造規格 事例規格 溶接部の機械試験に関する代替規定案
- 60-16-1：高温規格分科会審議案件
- 60-17-1：事例規格ニッケル合金溶接金属のBWR環境中のSCCき裂進展速度案
- 60-17-2：試験カテゴリC-F全体積UT代替可否案
- 60-17-3：テンパービード溶接方法改訂案
- 60-17-4：補修章の体系化に伴う総則及び検査章の規定追加案
- 60-18-1：破壊靱性試験方法及び判定基準等改訂案
- 60-18-2：図表番号体系案
- 60-18-3：設計・建設規格適用年版等改訂案
- 60-19-1：設計・建設規格2012年改訂版改訂案発電用設備規格委員会書面投票コメント対応案の提案
- 60-19-2：設計・建設規格2012年改訂版追加改訂案

5. 議事内容

（1）開会

定足数の確保を確認し、森下委員長が委員会開会を宣言した。また出席者全員の自己紹介を行った。

（2）議事次第確認

議事次第案の確認を行い、変更の提案はなく承認された。

（3）前回議事録確認【資料60-1】

事務局より前回議事録案の内容について説明が行われた。規格委員会委員長については投票の結果、森下委員長が再任され、標準・規格センター運営・企画委員会にて承認された。これを受けて森下委員長より挨拶が行われ、副委員長並びに幹事として引き続き宮口副委員長並びに波木井幹事が森下委員長より指名された。その他意見、気付き事項の確認を行った結果、意見等はなく、議事録案は承認された。

（4）規格委員会及び各専門委員会の委員の承認等【資料60-2, 3】

事務局より以下の通り規格委員会及び各専門委員会委員の再任、退任、新任候補が報告され、オブザーバー／事務局退出後、委員の承認等が審議され、出席委員全員の賛成で承認された。

規格委員会

〔再任〕湯原委員、加口委員、森委員

〔退任〕永井委員

〔新任〕平山氏（東芝）

火力専門委員会

〔再任〕和泉委員

〔退任〕中垣委員

〔新任〕三原氏（富山大学）、天野氏（早稲田大学）

原子力専門委員会

〔再任〕小木曾委員、兼近委員、野村委員

材料専門委員会

（委員の異動なし）

核融合専門委員会

（委員の異動なし）

（5）発電用設備規格委員会活動状況報告

（5-1）規格委員会幹事会報告【資料60-4】

波木井幹事より第38回、第39回の規格委員会幹事会概要として臨時拡大規格委員会、学協会協調による規格基準策定計画、福島原発事故調査・検証委員会中間報告への意見提出、シビアアクシデント関連タスク状況、

電工会事務局支援状況等について報告が行われた。

(5-2) 投票結果報告【資料 60-5】

事務局より規格委員会と各専門委員会の書面投票結果について報告が行われた。

(5-3) 公衆審査結果及び質問受付回答状況【資料 60-6】

事務局より発電用原子力設備規格に関する公衆審査結果と質問受付回答状況について報告が行われた。

[公衆審査結果]

- ・コンクリート製原子炉格納容器規格 事例規格 材料規格、設計・建設規格及び溶接規格の読替規定
- ・溶接規格 事例規格 母材の P-No 区分案
- ・維持規格 事例規格 ニッケル合金溶接金属の大気中の疲労き裂進展速度案
- ・設計・建設規格第Ⅱ編 2011 年追補版案

以上 4 件、意見なし。

[質問回答]

設計・建設規格関係

- ・QNC200586
- ・QNC200587 (一部は今後回答)

使用済燃料貯蔵施設規格

- ・QFA200708

なお、質問回答 QFA200708 は質問者より回答内容了解、質問取下依頼があったため、その対応を実施した旨、報告が行われた。

(5-4) 火力専門委員会報告【資料 60-7】

小溝火力専門委員会委員長より、火力専門委員会の活動状況として、発電用火力設備規格詳細規定案の書面投票意見対応状況等について報告が行われた。

(5-5) 原子力専門委員会報告【資料 60-8】

小山原子力専門委員会委員長より、原子力専門委員会の活動状況として、平成 24 年度活動計画、書面投票結果の意見対応に関するガイドライン、引用する規格の年版、材料規格改訂方針検討タスクの終了、事例規格集の発行提案等について報告が行われた。

(5-6) 材料専門委員会報告【資料 60-9】

高橋材料専門委員会副委員長より、材料専門委員会の活動状況として、材料事象の解説策定の状況、金属キヤスクバスケット／高速炉規格の新規材料の規格化に関する審議状況、高温での Su 値の求め方に関する検討状況等について報告が行われた。「材料事象の解説」の発行形態については今後詰めていくこととなった。

(5-7) 核融合専門委員会報告【資料 60-10】

高橋核融合専門委員会委員長より、核融合専門委員会の活動状況として、実験的疲労設計法の導入等のマグネット構造規格の改訂案の検討状況について報告が行われた。

(6) 発電用設備規格委員会運営に関する審議／報告

[審議事項]

(6-1) 運営規約改訂提案【資料 60-11-1】

村部委員より専門委員会／規格委員会の運営規約改訂提案について説明が行われた。今回の改訂の特徴は委員の貢献度に応じて分科会、作業会の委員を解任できる様にしたこと、委員の貢献度評価は出欠実績のみでは貢献内容を考慮すること等としたことであり、議論の結果、専門委員会運営規約改訂案は委員多数の賛成（反

対 2 票、賛成 20 票）で承認された。また規格委員会運営規約改訂案は書面投票を実施することが委員多数の賛成（反対 1 票、賛成 21 票）で承認された。主な議論は以下の通り。

・委員の貢献度評価から出欠実績を削除して業務内容を考慮して評価する旨修正したが、本来の趣旨は業務状況に応じた貢献度基準の多様化であり、出席が難しい学識者への具体的救済措置を加えれば良いので、出欠実績を削除するのは良くないのではないかと。出欠実績の評価は残すべきではないかと。

（６－２）使用する材料の規格における改正 JIS 材の使用【資料 60-11-2】

山田材料分科会主査より使用する材料の規格における改正 JIS 材の使用について説明が行われた。JIS 規格の改訂は現状通り材料規格を改訂することで対応、材料規格の改訂までの期間は質疑応答により改正 JIS 材が改正前の JIS と同等であるか解釈を与えるというもので、本提案並びに本提案に伴う審議要領の改訂の書面投票の実施が委員全員の賛成により承認された。

（６－３）審議要領改訂提案【資料 60-11-3】

堂崎規格委員会幹事会事務局（原専幹事）より審議要領改訂提案について説明が行われた。今回の改訂の特徴は再度の 1 次投票、2 次投票等の投票期間を最短で 2 週間とできること等としたことであり、議論の結果、審議要領改訂案の書面投票を実施することが委員全員の賛成で承認された。なお書面投票を実施する際、使用する材料の規格における改正 JIS 材の使用に関連した審議要領の改訂案とまとめて書面投票を実施することを検討する。

（６－４）発電用設備規格の原案策定に関する内規改訂提案【資料 60-11-4】

小山原専長より発電用設備規格の原案策定に関する内規改訂提案について説明が行われた。本件は原子力専門委員会では検討中の事例規格集発行提案と引用規格年版扱いの明確化案に対応して改訂を行うもので、議論の結果、本内規改訂案の書面投票を実施することが委員全員の賛成で承認された。

〔報告事項〕

（６－５）外的事象起因のシビアアクシデント対象設計ガイドラインの進捗状況【資料 60-11-5-1~3】

宮口副委員長より外的事象起因のシビアアクシデント対象設計ガイドラインの進捗状況について報告が行われた。第 5 回タスクでの検討結果を反映したガイドライン案について、現在原子力専門委員会書面投票実施中である。ASME との打合せでは英文版に関する質問があり、ガイドラインは日本語及び日本語の英訳版を発行する旨、回答した。学協会規格類協議会、保安院等との調整を実施中。

（６－６）シビアアクシデント時構造健全性評価ガイドライン検討タスク進捗状況【資料 60-11-6】

永田原専副委員長よりシビアアクシデント時構造健全性評価ガイドライン検討タスクの進捗状況について報告が行われた。1 月 24 日開催の臨時拡大規格委員会にて検討状況の概要を説明し、2 月の ASME との打合せにおいては荷重に対して歪みを評価するより耐圧限界を求めて、その中で管理するべきとの指摘を受けた。予定としては本年 9 月にガイドライン案の審議開始を目標としている。

（６－７）MDEP 対応状況【資料 60-11-7】

永田原専副委員長より MDEP 対応状況について報告が行われた。JNES からの委託による本年度報告書を提出した。MDEP 成果反映方針検討タスクは現在クラス 1 容器規定の相違点を評価、次回の原子力専門委員会では報告を予定している。Code Convergence Board に JSME として参加するかは、今後チャーターの内容等踏まえて決定する。

（６－８）一般要求事項検討タスクの状況【資料 60-11-8】

小山原専長より一般要求事項検討タスクの状況について報告が行われた。設計認証について議論は継続であるが事業者側の意向統一の遅れにより停滞状況。設計認証機関の候補も明確ではない。今後は設計認証を中心に議論を行い、設計建設規格の一般事項部分を代替する事例規格化を目標とし、次回規格委員会に進め方の提案を行う予定。

(6-9) 原子力関連学協会における活動状況【資料 60-11-9】

宮口副委員長より原子力関連学協会における活動状況について報告が行われた。3 学協会が連携して福島事故以降の民間規格の貢献方法等について協議中であり、今後、保安院等とも協議を行う予定。

(6-10) 東電福島原発事故調査検証委員会中間報告対応【資料 60-11-10】

波木井幹事より東電福島原発事故調査検証委員会中間報告パブコメ対応として JSME 発電用設備規格委員会として提出した意見内容について報告が行われた。

(6-11) 標準・規格センター運営・企画委員会報告【資料 60-11-11】

事務局より第 3 回標準・規格センター運営・企画委員会での審議結果について報告が行われた。以下の 3 件の規格の発行が承認された。

○設計・建設規格 事例規格 発電用原子力設備における「応力腐食割れ発生の抑制に対する考慮」改訂版

○設計・建設規格 2011 年追補版 第Ⅱ編 高速炉規格

○溶接規格 2011 年追補版

(7) 火力発電用設備規格に関する審議【資料 60-12】

(7-1) 火力設備規格に関する審議【資料 60-12-1~3】

1. 尾崎委員（材料分科会幹事）より以下の規格委員会書面投票への意見対応案およびそれに伴う修正案の説明があり、反対意見が取り下げられたことが報告された。本件について審議の上、修正案が編集上の修正であることが承認され、出席委員全員の賛成により可決承認された。尚、吉田委員コメント対応に関連して、「火力規格では ASME Sec. I / V / VIII / IX を一つの規格に纏めた為、ASME の Component Code における Service Code 規定事項の Amendments が火力規格では規格内の齟齬と取られてしまうことがこの類のコメントの原因であり今後対応を考えるべき」との意見があった。

・ No. 187 書面投票（詳細規定案材料分科会関連）意見対応（案）【資料 60-12-1】

2. 1 の可決に伴い、第 58 回規格委員会にて承認されていた基本規定事例規格、第 59 回規格委員会にて承認されていた基本規定、一部承認されていた詳細規定（今回の承認で全てが承認となった）の 3 つの規格の公衆審査募集手続き開始について提案があり、出席委員全員の賛成により可決承認された。
【資料 60-12-2】

3. 1 の可決に伴い、2 と同様 3 つの規格の日本電気技術規格委員会（J E S C）への審議依頼について出席委員全員の賛成により可決承認された。【資料 60-12-3】

(8) 原子力発電用設備規格に関する審議

(8-1) 再処理設備規格案に関する審議【資料 60-13-1~3】

再処理設備分科会の山本主査、加納幹事、設計規格作業会の平幹事、溶接規格作業会の大野副主査、高坂幹事より再処理設備規格案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①維持規格案【資料 60-13-1】

規格委員会書面投票結果（可決）が報告された。また、保留意見等に対する検討・回答を今後実施することが報告された。

②溶接規格案【資料 60-13-2】

規格委員会書面投票結果（可決）回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が編集上の修正であること、公衆審査を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・溶接規格案は炉規制法の技術基準を引用しているが、引用するだけでは、機械学会としての検討が不十分ではないか？→炉規制法の技術基準にあるので、今回は現状通りとし、今後見直し等検討したい。なお、この技術基準は規制側においてメンテナンスが不十分なので、溶接規格案ではJISの年度等の見直しを実施している。

③設計規格案【資料 60-13-3】

規格委員会書面投票結果（反対票有り）回答案に関する説明が行われた。反対票は取り下げられ、議論の結果、回答案が編集上の修正であること、公衆審査を実施することが委員全員の賛成により承認された。なお現在原子力専門委員会において回答案が編集上の修正であることを確認中であり、その結果を踏まえて公衆審査を実施することになった。主な議論は以下の通り。

・設計建設規格の 2012 年版では支持構造物の応力評価に鋼構造設計規準の最新版との整合を取っているが、本規格案ではその整合が取られていない。→今後見直し等検討したい。

（８－２）材料規格改訂案に関する審議【資料 60-14-1~3】

材料分科会の山田主査より材料規格 2011 年版改訂案に関する説明が行われた。議論の結果、本件、現在原子力専門委員会書面投票を実施中であるが、原子力専門委員会書面投票可決項目に関して規格委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・溶接を想定して SS400 の化学成分制限追加を提案しているが、SS4000 は本来溶接用材料ではないのだから溶接を行う場合は SM 材の使用を優先すべきである。

（８－３）使用済燃料貯蔵施設規格改訂案に関する審議【資料 60-15-1, 2】

使用済燃料貯蔵施設分科会の三枝主査、阪田委員、伊藤委員より使用済燃料貯蔵施設規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①金属キャスク構造規格（2007 年版）誤記訂正【資料 60-15-1】

金属キャスク構造規格（2007 年版）密封容器の溶接部の規定に関し、溶接後熱処理が不要な条件のうちの予熱温度を、引用している溶接規格（2007 年版）に合わせた誤記訂正案に関する説明が行われ、委員全員の賛成により承認された。またコンクリートキャスク、キャニスタ詰替装置及びキャニスタ輸送キャスク構造規格についても同様な誤記訂正案が委員全員の賛成により承認された。

②事例規格 溶接部の機械試験に関する代替規定案【資料 60-15-2】

規格委員会書面投票結果（反対票有り）に対するこれまでの回答状況に関する説明が行われた。議論の結果、二次投票を実施するには論点整理が未だ不足であり、規格委員会／原子力専門委員会から適切な委員も加わった臨時のチームで再度議論し、次回の規格委員会で結果を報告することになった。主な議論は以下の通り。

尚、一部データで溶接部強度が母材強度を下回っていることに対して一部委員から「好ましくない」との意見があったが、「規格上は母材規格値以上であれば問題ない」が大勢の意見であった。

- ・反対者との意見交換に時間がかかっているが、議論の深さが足りない。
- ・論点の一つとして『規格において「高度の安全性と信頼性の確保」を優先するか、「独自で合理的」なものを重視するか』と整理しているが、この様な認識は適切ではない。→論点を再度整理する。
- ・容器を引き続き製作する場合の基準として溶接線長 60m、2 年を超えない製造期間を設定しているが、まずは溶接部の健全性確保に関し、本体付機械試験にどんなクレジットを期待していたのかを考え、それを実現するための要求を考えるべきではないか？→検討する。
- ・試験データのある材料は 2 種類（A-350LF5 と SUS304）しかなく、これをもって一般的な材料にも適用できると言えるのか？事例規格に対象となる材料を明記すべきではないか？→2 種類の材料で他の材料もカバーできるとする考え方、或いは外挿可能と考える理由を検討する。

（８－４）高速炉規格改訂案に関する審議【資料 60-16-1】

高温規格分科会の浅山主査より高速炉規格 2011 年追補版の発行状況及び高速炉規格 2012 年版案の審議状況に関する説明が行われた。議論の結果、高速炉規格 2012 年版案は現在材料専門委員会のレビューを終え、原子力専門委員会の書面投票を実施中であるが、次回規格委員会において高速炉規格 2012 年版案の改訂項目の特徴（高温クリープ特性の評価、許容値の設定等）について説明することになった。

（８－５）維持規格改訂案に関する審議【資料 60-17-1~4】

維持規格分科会の野村主査、齋藤副主査、検査作業会の寺門主査、藤野氏、補修作業会の中野幹事より維持規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①事例規格ニッケル合金溶接金属の BWR 環境中の SCC き裂進展速度案【資料 60-17-1】

規格委員会書面投票結果（反対票有り）回答案に関する説明が行われた。議論の結果、規格委員会二次投票を実施することが委員多数の賛成（賛成 22 票、保留 1 票）により承認された。主な議論は以下の通り。

・反対意見への回答において海外データを追加したグラフを作成しているが、引用文献によれば、追加した海外データは 90 年代のものである。事例規格で提案された線図の根拠論文は 2010 年のものであり、その時点で 90 年代の海外データの存在はわかっていたはず。2010 年の論文で、それらの海外データが取り上げられなかったのには理由があるはずであり、そのようなデータを参照することに意味があるのか。

→事例規格に提案の線図の根拠データは、JNES にて取得の品質の高いデータのみを採用した。今回の回答の中で示したデータは必ずしも同様な確認はできていないものであるが、データの傾向は変わらず、これらのデータを含めた場合の進展速度線図も同等もしくはやや安全側の線図となっている。

②試験カテゴリ C-F 全体積 UT 代替可否案【資料 60-17-2】

規格委員会書面投票結果（反対票有り）回答案に関する説明が行われた。議論の結果、論点を整理して反対意見を出した委員との意見交換を行うことを前提として規格委員会二次投票を実施することが委員多数の賛成（賛成 20 票、反対 2 票、保留 1 票）により承認された。主な議論は以下の通り。

・NO.1 の反対意見に対する回答案について、PT と UT を比べた場合、表面検査としての欠陥検出性は PT の方が優れているのは明らかであり、同等性を説明しようとするのではなく、どういう大きさの欠陥を見つける必要があるのかという観点から説明するような回答に見直す必要があるのではないかと？→基本的には評価不要欠陥寸法以上の欠陥を見つければよいので、PT でも UT でもそういうレベルの欠陥検出性があるという説明もしているが、反対意見が検出性についての定量的な説明を求めているのでそういった点を中心の回答になっている。

・NO.1 の参考意見に対する回答案に関連し、規格ユーザーの利便性向上に役立つ様な提案は、取り入れることにより不具合が生じる場合以外は、基本的に取り入れるべきではないか。→UT の試験要領に係る規定は JEAC にあり、一方、維持規格は試験要領ではなく検査頻度や検査対象範囲を規定するものであることから、この意見に関しては、維持規格に直接書き込むのではなく、JEAC を引用する規定にすべきと考えている。

③テンパービード溶接方法改訂案【資料 60-17-3】

規格委員会書面投票結果（可決）回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

・施工要領確認試験におけるクラッド溶接およびバタリング厚さの規定で「6 層」と記載されているが、6 層未満の施工管理も許容しているため、「6 層」に係る記述は削除すること。

④補修章の体系化に伴う総則及び検査章の規定追加案【資料 60-17-4】

規格委員会書面投票提案について説明が行われた。議論の結果、委員全員の賛成により書面投票実施が承認された。

（８－６）溶接規格改訂案に関する審議【資料 60-18-1~3】

溶接分科会の杉江幹事より溶接規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①破壊靱性試験方法及び判定基準等改訂案【資料 60-18-1】

規格委員会書面投票結果（可決）回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。

②図表番号体系案【資料 60-18-2】

図表番号体系案に関する説明が行われ、溶接規格 2012 年改訂版案に編集上の修正として反映する提案がされた。議論の結果、委員多数の賛成（賛成 22 票、保留 1 票）により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・図表番号の付け方は解説に明記した方が良いのではないかと。

③溶接規格改訂案に関する審議【資料 60-18-3】

溶接規格改訂案（曲げ加工、レーザビーム溶接施工法確認試験、溶接後熱処理を要しないもの等）に関する説明が行われた。議論の結果、本件、現在原子力専門委員会書面投票を実施中であるが、原子力専門委員会書面投票可決を条件に、規格委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・熱間曲げ加工による効果を溶接後熱処理が行われた場合と同様と考えられる、と言うのは言い過ぎであり、加熱遷移部は熱処理温度までは熱せられないので注意する必要がある。

（８－７）設計・建設規格改訂案に関する審議【資料 60-19-1, 2】

設計・建設分科会の永田主査より、設計・建設規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①設計・建設規格 2012 年改訂版改訂案規格委員会書面投票回答案【資料 60-19-1】

規格委員会書面投票結果（可決）回答案に関する説明が行われた。議論の結果、回答案が妥当であること、本案の公衆審査を実施することが委員全員の賛成により承認された。

②設計・建設規格 2012 年改訂版追加改訂案【資料 60-19-2】

設計・建設規格 2012 年改訂版のうちの追加改訂案に関する説明が行われた。改訂案のうち、JIS, JEAC2010 年版の反映（非破壊試験）と鍛造品の定義は今後原子力専門委員会の再投票／二次投票を実施予定であるため、議論の結果、これらを除いた案件の規格委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

（９）関連機関状況報告【資料 60-20-1】

伊藤委員より ASME 規格関係委員会の活動状況について報告が行われた。

（１０）次回開催予定

次回の発電用設備規格委員会は 6 月 8 日（金）の開催（場所：JSME 第 1 会議室）となった。

以上